

破窓記

安政二年乙卯十月三日
地震の窓を記す

71
758



此の字の似る
或は伊達の
やがて
此の字の似る
伊達の
記す
記す



○ 能字たるもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 字の似るもの

○ 走るるめ
いぬい えるく おとほ はと うふ おち ずぶ 筆
イ井 エエ ハガ マホ ハワ ウフ ジチ スツ
音機字者能字格 其他の能字格の書と視て
ウチ リカ ウラ ええ とら かし

りり けり けり けり けり けり
カシ 後口 際夕 忍子 風雨 屋夜 中
カシ エエ タキ アメカセ ヨルセル

あめくち ちのり ちのり ちのり ちのり
雨風 夜庭 アメカセ ヨルセル

ちのり ちのり ちのり ちのり
カシ エエ

ちのり ちのり ちのり ちのり
カシ エエ

ちのり ちのり ちのり ちのり
カシ エエ

758

卷中標目大槩



○ 地震ナヰが起りし地方の事

○ 少川河丸の内田の邸宅イタダク被り出地ウチの事

○ 法色の僧アガリの事

○ 市振アハレの事

○ 芝草アハレの事

○ 市アハレの事

○ 市アハレの事

○ 法アハレの事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

- 二十四日申元 各所の事
- 高野人の有教と云う所にて後人の説を解く事
- 元禄の及古地震ありし年月の事
- 武家所方焼去場あり事
- 高野人の有教と云う所の地蔵院あり事
- 新吉原所伝完りる所の場あり事
- 申十月二日以來 各所地震初搖りの古より
- 是よりり記せし事
- 古地震と云ふ一語に連る



破窓記序

今此 陽無月 初 地震 太
 強 弱 阿 傷 疆 土 倉 墳
 つまのりしは地蔵大印五里四方のまはは
 好なるるまある家たあれぬりあめられ
衰 ねはくの人の身とあり命とそとひり
寡 するまのりすあめあり命とそとひり
斯 災 下 泰 平 奈何 或
 してありしをりひめおつりしひりあり
博士 問 將 眞
 ばのせよ けいば国ありしをりあり
七 必 禱 あり ぼろびん時必 妖 孽 ありと云ふ
ライシヤリ エウケツ ワカハヒ

古 古 語 古語 地震 地震 為 為 顛倒 顛倒
 興 興 而 而 社 社 在 在
 微 微 對 對 然 然 在 在 行 行 末 末
 繁 繁 榮 榮 大 大 御 御 世 世 其 其 由 由 縁 縁 例 例
 鮮 鮮 珍 珍 事 事 厭 厭 乞 乞 其 其 由 由 縁 縁 例 例
 書 書 記 記 後 後 來 來 談 談 柄 柄 為 為
 憶 憶 己 己 素 素
 一 一 日 日 穩 穩 心 心 萬 萬
 懶 懶 筆 筆 執 執 事 事 疎 疎
 萬 萬

為 為 術 術 無 無 停 停 日 日 一 一 亭 亭 家 家 在 在 日 日 本 本 橋 橋 間 間
 何 何 頃 頃 東 東 行 行 西 西 行 行 週 週 遠 遠
 視 視 隨 隨 聽 聽 意 意 此 此 冊 冊 子 子
 綴 綴 寂 寂 欣 欣 喜 喜
 芝 芝 旁 旁 數 數 視 視 鳳 鳳 郭 郭
 近 近 外 外 神 神 田 田 貴 貴 人 人
 四 四 邊 邊 初 初 賤 賤 民 民
 市 市 井 井 至 至 精 精 採 採
 細 細 索 索 秋 秋 勢 勢 眼 眼 前 前
 細 細 索 索 秋 秋 勢 勢 眼 眼 前 前

んまかぬ 斯 倉卒 物 爲

海客のあさこいぬ 字 著

馬踏のうまの 駁 筆 力

たけのこ 深川 浮 愛

ほんま 鳥 書 在 亀

よこひ 侶 萬 世 欲

あか 子孫 傳 不 蓋

とが 津 心 短

みぎ 藁 短

不顧 荀 卷

端 書 附 昔 大 城 下

十一月十日 斯 云 江門 此 藁 相應

すめ 書 僧 此 藁 相應

名告 號

活計 隙 閑

幸 把

ふで

西の進定水記

安政二年乙卯十月二日屋のわづら天幕を西の
 音と合めりあま入てか〜く_カ成り成の古刻_ニ年
 音を^カ歸くと少^{ハシ}輝の字ありて^ヒ子^{ハチ}撫まらうつ
 嶺_{ハチ}と_{ハチ}まらうまらうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと
 天地おのづらう有あり^ヒ輝と^ヒ輝のあり^ヒひさま
 象より^{ハチ}まらうと^{ハチ}まらうと^{ハチ}まらうと^{ハチ}まらうと
{ハチ}まらうと{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと
{ハチ}まらうと{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと
 鳴らうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと_{ハチ}まらうと

二階座をなす
層構座をなす
物さうめり
まきと倒ひて日
をさくはせり

さゆきしるる二階座移る書提又座の架り
靴具より懸違わら架又漆のまじり
やまゝんえ云并 移座物さひまき
くまはつるはうまうし
掘りぬきしるる
さゆきしるる
むの牙と銀 扉戸 門あけて
出新し心せし
しるる

連座ひと梅の扇なる扇造おら
あわてし
人こま
新丸
い
架
あ
中座の物さ

よりききし少川所杉平光寺及切丹後寺及
悦々喜神保少路少例西の角より一橋多し少川所
東の方行例表橋所堀田橋中寺及西角より
利ききし水送橋の迎と心籠切丸石表橋
少島の心出澤東のつら江心籠切少田伊勢寺及古坂
石寺寺及及加勢寺より廻橋橋とのつら江古坂裂寺
大空 古盛 二ノ一
あゆみと海してらんやま一橋所門の古寺石橋
い〜〜居るけつと入て右めあ〜〜さま〜〜

才宅 舞地 ^{ワイナ} あ〜〜つとま〜〜る御堂寺取巻中寺
端〜〜つ〜〜出の所〜〜い〜〜らんやま古坂酒井
新歩江及上中之屋及辰口森川出村寺及郵城寺
和田屋との内よりあ〜〜い〜〜ゆけい少川内杉平
北橋寺及上中之屋表寺平田寺及西の角内表籠屋及
悦々杉平寺表江及及表悦々又和田屋所表新表橋
又山下川舟橋との内堀田寺の杉平北橋寺及寺平
古原寺及杉平寺の所及伊勢所理寺及及新井院寺及
南部原寺及杉平寺の海原寺及丹村長つと及少橋原寺及

杉平落座後及中屋多ありて燭の又杉平收後及
新場内海子の若揚焼一とく切きて八代例
河原の方へゆくよと後及馬車及び鎌倉中野原
山田交之杉平お種及山下之屋交即多中務吉備及
永井幸江及屋敷赤焼の馬場先女の古衣石のく
新^クるくくくく赤焼と云ん道とくくくくく阿部
伊能及才尾清道繁地例の侍 養父交の評定和
清道繁地例の山崎屋へ御遊へ杉平く焼く地又^ク
別着くくく杉平屋敷橋より赤い御ぬ布巾のくくく
再びたわがくくくくくくくくくくくくくくく
とくく杉平の御屋敷其屋敷多と杉平くくくく
戸隙のちとくくくくくくくくくくくくくく
今赤きひのひの風吹くくくくくくくくくく
ふんを戸のちとくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
あやしあやしくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく^{ハル}
あやしくくくくくくくくくくくくくくくくく
又杉平打巻とくくくくくくくくくくくくく^{キツ}

悩める水をおろくはあえり人のあはれをてらる
梓まをす水取よへ彩を糸所めううわの古は焼きて
糸まをすトコうひの其地はあうとあうしんま
ちうま半はうくことまゆり生めひさびさびさ
懐ツナがぬ形のはうるゆををいあんとて糸を
呻吟病者さやうひあうく又ううまをまの法華の御念を
ひまをひ飛人を放るれうまをうう糸のひさ
あすしんま我は今ケフのあまあうあうるま
出のまひぬうくあうううえぬとす年うう

昔連ナガヤ屋の屋々るまをうと地まをううし人まを
まお何う海城橋を揚る雲層橋うう有る
君名橋の通る出地のまをうとんて糸代橋出づ
まお何うううまを連テつまをたあまぬううあ
地震地震うあゆりあひひまのあまぬううまを
裂けん結連まをまをぬがたううううう
ううううあまをまを架ううたのうううう
糸まをまをううう打御まを糸をうう
ぬまをうううまの御まをううう

昔地を澤川西永代町撫糸に在りて許なり
ゆぐみ頼ツケまきしんく小例の少路にむらあてそよ
まをくくツケ海にあらまきそよのるえりまほやん
あまのうらふらんよ誰の袖を之掃ふは君御ちり
そのるちまきそよ若うきし昔あつる市のおよ
ありまきそよと物後うてあまのうらふらんよ雨あま
まのく君海まきそよく君あまのうらふらんよ雨地
少路のたつまきしんく小例の少路にむらあてそよ
頼ツケまきしんくまきそよまきそよまきそよ

昔地を澤川西永代町撫糸に在りて許なり
ゆぐみ頼ツケまきしんく小例の少路にむらあてそよ
まをくくツケ海にあらまきそよのるえりまほやん
あまのうらふらんよ誰の袖を之掃ふは君御ちり
そのるちまきそよ若うきし昔あつる市のおよ
ありまきそよと物後うてあまのうらふらんよ雨あま
まのく君海まきそよく君あまのうらふらんよ雨地
少路のたつまきしんく小例の少路にむらあてそよ
頼ツケまきしんくまきそよまきそよまきそよ

浅草場あささ
あまのうらふらんよ
あまのうらふらんよ

兄弟中の我をを多敷に人子卯赤遠
善法寺に携る者尤多く聖法寺に在り

あまのうらふらんよ
あまのうらふらんよ
あまのうらふらんよ

命を以てして一命を以てして
忽ち其の死を待つ如くす

惟ひしをいふもあがきも
あはれなくもいふもあがきも

さうはちの海つづの海つづ
動定不動か

他^{ホカ}の海つづ一は海つづ
一は海つづ

ただは海つづの海つづ
一は海つづ

つづは海つづの海つづ
一は海つづ

あはれなくもいふもあがきも
あはれなくもいふもあがきも

海つづの海つづ一は海つづ
一は海つづ

海つづの海つづ一は海つづ
一は海つづ

横山町をり目海つづ海つづ
と海つづの海つづ

くまの事なる事を海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

さう目の田中其志と海つづ
と海つづの海つづ

少川町をての寺宅又市河川をての寺をて
しゅうり動ありしときけりおのふりて死
しゅうりのらいうをてのふりて其志よしとる若し
昔のうぐのみてしとておのふりて其志よしとる若し
しゅうり動ありしときけりおのふりて死
地中形伝きよのふりて其志よしとる若し
伝傳よあひり本巻を伝ふも幸うしとる若し
凌ぎしとる若しとる若しとる若しとる若しとる若しとる
さくぐり中巻の庫裡はしとる若しとる若しとる若しとる

尾巻巻終りてはるのふりて其志よしとる若し
しゅうり動ありしときけりおのふりて死
打御是てしとる若しとる若しとる若しとる若しとる
おのふりて其志よしとる若しとる若しとる若しとる
海邊のふりて其志よしとる若しとる若しとる若しとる
あ井氏跡をての寺宅又市河川をての寺をて
其志よしとる若しとる若しとる若しとる若しとる
さくぐり中巻の侍はしとる若しとる若しとる若しとる

廿二日 菅原の先
後曲りし細く
比まのく十文字
高く御道たつた
比分ありては世
古の古道なるを

千の門のあり
止ぬかき知

海軍の第一門
りくゆつふれ
是年第一の門
御の海軍の第一門
境の海軍の第一門
戸土河を打海軍の
浦風部を打海軍の
右まの海軍の
御の海軍の
かゝる人の海軍の

~~~~~つ存りては~~~~~  
カカツチ  
カク  
火神

~~~~~相川所~~~~~

~~~~~南少の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~

~~~~~境の臺所~~~~~



後千世迄之町  
 後所禁井所  
 定回河所律所  
 此の家向は  
 一山カウ  
 又上宮と云  
 筆指の辺に  
 御上座に  
 一と云ふ  
 或て下  
 口は宮の  
 知拙の  
 けの

控現み観世考の  
 たる根の斜<sup>たま</sup>  
 たるを由て  
 東側  
 城さけ中  
 由て一持の  
 とすの  
 茅所の  
 心成を

勿為城さける  
 清き  
 筋遠程を  
 さす  
 つ  
 擲  
 ん  
 取  
 人



あまのあけくさ水かごとけ津江と遠きまのいと  
 さみしけらあなわを柳らうあふのあ程をま  
 述くまのまううう一今あるあふの量地をうて  
 善舞の量と者或舞地をうる防衛と凌ぐ  
 まふまふううううあふあふの命をうて  
 帝中のあふるんんんんんんんんんんんんんんんんん  
 廠のうとふ他へあふもくあふもくと作あふる二石探  
 探あふ石探あふあふるな 扇まきう一故程あふ  
 うづもあつゝまよりうて今もよりいれあふ人といふあ

らるエの<sup>ソラカ</sup>天<sup>カ</sup>あふるりあふあふあふまのふ<sup>ヒシ</sup>糕八斗を  
 考<sup>ソナヤ</sup>あふて<sup>ソナヤ</sup>懸<sup>ソナヤ</sup>あふるるあふるるあふるるあふるる  
 りあふのまううううううううううううううううう  
 あふるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
 ううううのうううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 柳らうううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううううう

送る七日吾峠のありきり由利日向陽寺の  
ついでに峠の石をひくくし海を渡るの草をうし  
つるまをとりとびのち船のつりかゝるの要<sup>ツ</sup>海川  
あが葉するまはひの石<sup>ト</sup>のりし

ありきりし市へ歸るまは石のありし

むろり地をたつるるありしと揺る<sup>ニ</sup>し<sup>ト</sup>わら

と水のたよりありし<sup>居</sup>し<sup>テ</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし

二りのありし<sup>孟</sup>夜<sup>夜</sup>のありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

大羽<sup>ト</sup>のありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

三日のありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

そ<sup>テ</sup>四<sup>ノ</sup>羽<sup>ノ</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>

ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>ありし<sup>ト</sup>



四月あはしきの出の早しき  
きりきりあざむかはめ

電の横断のふく消し  
おき子徳出網なま

蓋おきしききりしきり  
かきこりてよまき

外にきりきりしきり  
八日天星を在宿り

市中銀りお坊より  
なるわりの改書記

町奉行 南池田掃部右衛門 小井戸 野村  
きりきりきりきりきり

二の八百九十九人  
男のふり百十人

七拾九人なり  
市中新吉所へ入る  
百七人なり

撰りきりきりきり  
は家一万

二の百拾九人  
長に長は長

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

二の百拾九人  
平均

別々  
おききりきり  
きりきりきり  
おききりきり  
おききりきり  
おききりきり  
おききりきり  
おききりきり

長之書口所應之指之而系指少指所之指之也

一 洪地例十形所 抄年洪地者為之口出元平形所

洪字一 張越印之

一 尋身指洪所口出元平形所口出元平形所

一口出元陰所者之係之也

一 榮井所口出元平形所 為吉出元一也

一 葉形所 抄年之形及勿變元一也 元 抄

一 淺系形所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

口出元形所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

之好所口出元平形所

一 樓系所 三所之 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

抄所南島及所少馬及所者仲云云

地中形所十八也 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

少之也

一 新雲系所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

之自形所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

一 今戶所 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

一 抄年所 抄年所 抄年所 抄年所

以重之の事  
江東の事  
西海へ

秋光の事  
弟の事

- 一 海軍の事
- 一 一民の事
- 一 口新の事
- 一 千位
- 一 下谷の事
- 一 移住の事
- 一 志の事
- 一 口新の事

- 一 下谷の事
- 一 志の事
- 一 口新の事
- 一 下谷の事
- 一 志の事
- 一 口新の事
- 一 下谷の事
- 一 志の事
- 一 口新の事

- 一 南の事
- 一 北の事
- 一 東の事
- 一 西の事
- 一 南の事
- 一 北の事
- 一 東の事
- 一 西の事

赤之形物之

一 切所花所口本録所三三三所と海台一は若出元  
花所赤之徳之精極所二日口赤の中口赤日と之坊  
口赤日赤之坊赤日之

一 口赤中村所中口赤村所一足元

一 赤之形物一足元

一 中口赤の坊所一足元

一 口赤赤之坊所口赤赤日赤日一は若出元二日赤之  
と之坊之

一 深川赤録所赤日二日一足元

一 口赤赤間坊所口赤赤坊坊所口赤赤下所一は計  
出元赤間坊所赤之形物口赤坊坊所口赤赤坊所  
口赤坊坊所口赤坊坊所口赤坊坊所口赤坊坊所  
口赤坊坊所口赤坊坊所

一 口赤伊勢坊所赤日赤坊坊所一足

一 口赤赤坊坊所赤坊坊所赤坊坊所赤坊坊所赤坊坊所  
一足

一 口赤相川河坊坊所坊坊所坊坊所坊坊所坊坊所坊坊所

今更の重なる人  
杉葉三方の風成の  
若人の心も字元  
おしきりしるは  
万の心も字元  
おしきりしるは  
杉葉三方の風成の  
若人の心も字元

馬江河船所迄言一止於此元能并所家之利八古船所  
曰幸次市馬江河曰昔之坊船所曰伊呂波の坊人  
一曰市永代寺門前併所曰市所曰東併所曰山本所  
一曰市永元永代寺門前併所曰家之市永元併所曰市永  
曰市東併所曰幸次市曰山本所曰金平右  
曰人

市中出火通平合三千只之市中之  
分限あり其申家死人なる武家方新家寺院を  
籍めしりくをくの人船ありし取集めたる也

今更の重なる人  
杉葉三方の風成の  
若人の心も字元  
おしきりしるは  
万の心も字元  
おしきりしるは  
杉葉三方の風成の  
若人の心も字元

一万人あまのりたるし 市川上水樋筋地り  
さし被さし一ふちありし所十二日横所角と  
右樋筋の法より後今日より法還の写法法場  
ありしりくは地味なりとありし九日天旱る今日  
堀田海申より及從程侍從溜り宿借領  
下總国佐倉十壹二名 市町中上法併所  
再勤 夕つゝゝ 水樹園訓一話いあるはる人たる  
ありしぬ平区色板の上泊市根氏水岩ありし  
ありしぬ平区色板の上泊市根氏水岩ありし  
若くは水岩ありしぬ平区色板の上泊市根氏水岩ありし

ついでに世をうらめて天の下より多くの家におくを  
古稀なる身のおのあつらふようなりしやめりとも  
らねどもよけりいひしやま

上りて入るうりし新成の初擡めりたる天神地祇の  
加護にあはせぬ大八嶋國の地未あはるけきを  
んしるおあつらふと歌長しそるあり  
地中時雨神の速ひよ由重なるて一予りぬる  
新りのせしとて書てあはる尾緒れき海龍丸  
翅の彩るる「搔ませてあはる」や鶴卵酒

「春ももつちよはあはる雲のたう」おぼくして冬仲の  
まやあつらひなるおぼく出あつらひしと  
「熱もや」<sup>フシツケ</sup>「清濁」のひく「凝」<sup>コ</sup>日ル歌よあんと  
ゆつとんやと「甲」<sup>毒子</sup>「おの」<sup>毒子</sup>「と」<sup>毒子</sup>  
「い」<sup>毒子</sup>「ふ」<sup>毒子</sup>「志」<sup>毒子</sup>「ひ」<sup>毒子</sup>「て」<sup>毒子</sup>「と」<sup>毒子</sup>「む」<sup>毒子</sup>「と」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「つ」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「は」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「毎」<sup>毒子</sup>「日」<sup>毒子</sup>「に」<sup>毒子</sup>  
「飛」<sup>毒子</sup>「て」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「十」<sup>毒子</sup>「日」<sup>毒子</sup>「天」<sup>毒子</sup>「星」<sup>毒子</sup>「を」<sup>毒子</sup>「在」<sup>毒子</sup>「箱」<sup>毒子</sup>「中」<sup>毒子</sup>「に」<sup>毒子</sup>「入」<sup>毒子</sup>「り」<sup>毒子</sup>「て」<sup>毒子</sup>「は」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「其」<sup>毒子</sup>「身」<sup>毒子</sup>  
「取」<sup>毒子</sup>「承」<sup>毒子</sup>「承」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「出」<sup>毒子</sup>「桶」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「中」<sup>毒子</sup>「に」<sup>毒子</sup>「懸」<sup>毒子</sup>「を」<sup>毒子</sup>「探」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「其」<sup>毒子</sup>「中」<sup>毒子</sup>「に」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>「逸」<sup>毒子</sup>  
「本」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「禁」<sup>毒子</sup>「さ」<sup>毒子</sup>「さ」<sup>毒子</sup>「ふ」<sup>毒子</sup>「入」<sup>毒子</sup>「お」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「鐘」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「音」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「う」<sup>毒子</sup>「ら」<sup>毒子</sup>「又」<sup>毒子</sup>「予」<sup>毒子</sup>「る」<sup>毒子</sup>  
「吾」<sup>毒子</sup>「等」<sup>毒子</sup>「は」<sup>毒子</sup>「平」<sup>毒子</sup>「書」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「光」<sup>毒子</sup>「り」<sup>毒子</sup>「や」<sup>毒子</sup>「あ」<sup>毒子</sup>「の」<sup>毒子</sup>「海」<sup>毒子</sup>「を」<sup>毒子</sup>「口」<sup>毒子</sup>「號」<sup>毒子</sup>「む」<sup>毒子</sup>「と」<sup>毒子</sup>「よ」<sup>毒子</sup>



受白地ゆの擁護  
 福多福地もとの  
 其の初湯の傍に  
 海邊もたし未減  
 其の古き居る東  
 ありのあはれん  
 記す者あり  
 其の地を初揚の  
 ときもそと毎と  
 持てしむ  
 所と過し  
 吾等は此に在し  
 とす  
 今あつて  
 之れは能くし

着くさるあめあふさるありし〜  
 けしきさる揚とさるうつらみ層公のみありと  
 窺ふは沙羅と初サり心懸地ありと下つらと  
 ゆくゆくひさるふ〜ゆあると〜前中綱吉  
 高取への好将軍の良臣若年寄海防掛 藤田  
 誠之進 元虎之補たる〜戸田也其吏も前して誠之進とす  
 改名せしむ謂誠忠の二字をとり好将軍とせしむるは誠之進とす 戸田  
 忠右衛門はあとの文武の達者ありし世にさるくさるへ〜  
 人〜人〜誠之進ハ情識多しとす コタビ けさの幕軍の  
 十日ぼり〜文武将の目と命せしむ〜と

ちのあしりの夜両方〜おのが宿本はあつて其は  
 け羅もあひ身より〜はひゆ羅も勢をとりあひびて  
 百留山本屋の前と〜江戸川の小〜とさる〜  
 新慶揚の上、中の揚より石切揚のありひある  
 一條 スナ の二條は〜地の懸〜あり〜とさる〜  
 小日向の落木坂は高ふあり ト 松本屋忠出先〜  
 し〜の昔親屋をひ〜〜とす〜とさる〜と先 サキ〜  
 あ〜と〜とありぬ〜とさる〜と 本意 ぼい〜と〜  
 小石川波魚院前あり〜と坂と懸えて柳の





癖ありよめぬとけり日もやあし願きしふ  
及をいそぎてあまゆいぬ今夜雨降て人々の  
窮迫やうく縁ありんとも水府公由中殿なる  
あしと抱ひしふ 縁水府公由中殿のたぬ日  
津市丸くくをせられのあしと其由道筋へ福あき  
十二日天晴るつ早朝めて竹二坊訪ひしあ  
そ故の今更のたまふ家破すくまふ身傷き  
飲びしとて果月庵よ草汁調てしふの  
宿忘吊ふとんとも其宿志よと抱ウチく感

年の時ほうりよ女家再志としきよひて果月庵よ  
あしとぬす具くく女家。流志。先業。再志。  
立基。花海の二客なりおのく祖孫乃  
縁ありよめぬとけり日もやあし願きしふ  
遇ひてよ末極雨二客の身まうりしとせ  
端地よ書りけく思ウキと出ぬつけて  
礼ウキもや女家又たぬぶりよめゆきと縁ありの  
まうりしとけり日もやあし願きしふ  
風波の根きしとて思ウキと出ぬつけて



湯嶋より少川町丸の内の方つゞく

西河丸の内連屋より出起りしるるる元

又ある書よむ時戸障子倒れ家ハ少島のち原

動くかどく地ハ割れ砂をよりみあけ水と

吹出〜〜〜あり石垣崩れ頼道あり

流れて長く影〜〜又下り坂走〜〜家あり

舟あり〜〜且日夜海浦の霧あり〜房総の宿

人馬〜〜多〜〜山田京ハ結り〜〜

震ハ大浪地と破り二千ノ浪死七せ〜〜ん元

惜曰後ん葉の  
憂哉〜〜の  
宝曆より天明  
十年のち原地  
ん葉の〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜  
〜〜

又後見葉〜〜し〜〜十葉のあり〜〜と〜〜

約〜〜記す天明二年壬寅七月十四日子の刻

を〜〜の〜〜ちのぬが〜〜つ〜〜り〜〜よ〜〜ん〜〜森入り

ち〜〜や〜〜〜〜路〜〜る〜〜ま〜〜の〜〜路〜〜を〜〜さ〜〜ら〜〜る〜〜事〜〜お〜〜わ〜〜る〜〜

〜〜る〜〜る〜〜又〜〜の〜〜十五日の夕〜〜つ〜〜る〜〜卒〜〜あ〜〜る〜〜ゆ〜〜り

出〜〜〜〜〜〜と〜〜ら〜〜る〜〜ひ〜〜も〜〜と〜〜落〜〜〜〜あ〜〜や〜〜〜〜

家〜〜る〜〜る〜〜る〜〜る〜〜倒〜〜る〜〜る〜〜多〜〜う〜〜る〜〜あ〜〜る〜〜朝

〜〜ん〜〜ま〜〜る〜〜地〜〜ハ〜〜氷〜〜の〜〜形〜〜〜〜裂〜〜け〜〜つ〜〜是〜〜中〜〜り〜〜る

小日向の江戸川の原の地〜〜人〜〜中〜〜り〜〜裂〜〜け〜〜

養年奉養之文化  
九年甲子二月十日  
印多々々々々々々々  
諸事川初々々々々  
破御中々々々々々々  
昔年上の御中々々  
中々々々々々々々々  
くわんせきせき  
ひひあごき  
震るひあごき

災々々々々々々々々々  
城の櫓とほ々々々々  
家々々々々々々々々々  
んんんんんんんんん  
津藤下の都令のあ々々  
大震あううううう  
文政二年乙卯六月十二日  
又同十一年戊子十一月十二日  
同十二年甲寅七月十二日改元天保二日京師一園

寛云々々々々々々  
玉洞隠見と

ソウリョウ見一十  
上方十太電々々々  
事々々々々々々々々  
寛文三年五月朔日  
毎日六七度々々  
御様々々々々々  
事々々々々々々々  
いひ々々々々々々  
獲て見々々々々  
天文の年間々々  
此室より々々々  
白字御年の  
間の事々々々々  
何んんんんんん  
くわんせきせき  
寛文三年五月朔日

江比四年乙卯三月十日信州長光寺造嘉永  
六年癸丑二月二日夏相二例をこまごまの  
同十七年甲寅十一月十日十二日改元天保五歳七道々々  
大地震大海岸ツナミ前代末々々々々  
江府ハさあがうううううううううう  
あううううううううううううううう  
大震々々々々々々々々  
人の虎々々々々々々  
何んんんんんんんんんんんんんんんんんんんん

現在

そを祈り汗あへりしと云えりし如く神の  
あはれ憐れまうたうき汗流してさうに  
今よりうらま難と語らば其心まじかせんと  
ありまぬとすき心術テカタテなるこそなぬ  
ありのあはれまひよ風静かりて大の神乃  
あまびと和たまひしと云ふ人の死をまじら  
うらまの浪静かりてさうの神の怒イカリと  
語らば海嘯ツナミの怒ひとならば又け秋  
たまりしものよく雲のうらた露氏と神徳ありしを

とて末世しんてんかゆまのゆりき  
大神の歩徳化 將軍家の歳光綿と密と  
して平年しんて地底の蒼玉とたまふ  
まよき心まよきをあやまらぬおのひはうら  
ま 神恩澤をうらまふと云ふまよきありの  
まよき 書ついでまよき業を根とサシオキし  
十月十三日しんての雨の板屋とそと静あり  
ゆらぐなりしり

詠大震

安政二年十月二夜<sup>思</sup> 霹靂震動響<sup>軒</sup>乾坤屋鳴瓦落鼠肝碎  
風裏人聲十字奔壁上亂如看<sup>カ</sup> 逆浪<sup>ヲ</sup>紙窓洞似<sup>レ</sup>破心魂婦人婢  
女把<sup>テ</sup>昔<sup>ス</sup>天窮意湛如杖渠煩地妖稍<sup>ク</sup>消蘇得思<sup>レ</sup>頓<sup>ニ</sup>忘<sup>ル</sup>天帝地神  
噴須臾石火眼前際有無存亡不可言<sup>ハ</sup>忽<sup>チ</sup>發<sup>ス</sup>烟橫遠近坐未多火  
灼<sup>ル</sup>都門<sup>ヲ</sup>賤人傷<sup>レ</sup>踵<sup>ヲ</sup>惑<sup>レ</sup>汗<sup>ヲ</sup>頂<sup>ヲ</sup>高貴倏<sup>ニ</sup>陪<sup>レ</sup>依<sup>ル</sup>後園金殿玉樓<sup>ノ</sup>灰燼<sup>ニ</sup>趣<sup>キ</sup>市  
廊倉稟積<sup>リ</sup>積<sup>リ</sup>痕<sup>ヲ</sup>火<sup>ノ</sup>災<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup>鎮<sup>ル</sup>鷄<sup>ノ</sup>晨<sup>ノ</sup>景<sup>ヲ</sup>拂<sup>テ</sup>渡<sup>ラ</sup>遍<sup>ク</sup>看<sup>ル</sup>千里原皇國無<sup>レ</sup>雙  
鳳郭下江都花麗无量軒悲<sup>ク</sup>凌<sup>レ</sup>礫<sup>一</sup>枚<sup>紙</sup>此願<sup>ヲ</sup>採<sup>テ</sup>臺<sup>ヲ</sup>傳<sup>テ</sup>子孫  
神<sup>ノ</sup>云<sup>フ</sup>存<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>身<sup>ヲ</sup>め<sup>レ</sup>蘇<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>後<sup>ヲ</sup>士<sup>ノ</sup>難<sup>ク</sup>服<sup>ル</sup>め<sup>レ</sup>か<sup>ハ</sup>江<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>江<sup>ノ</sup>怖<sup>ル</sup>  
せ<sup>レ</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>め<sup>レ</sup>て<sup>レ</sup>予<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>破<sup>レ</sup>窓<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>れ<sup>と</sup>一<sup>ノ</sup>座<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>る<sup>後</sup>と<sup>レ</sup>悔<sup>ム</sup>

平伏<sup>ヒレ</sup>ハ鷹<sup>フス</sup>の羽<sup>ノ</sup>の雀<sup>ノ</sup>の雀<sup>ノ</sup>の雀<sup>ノ</sup>

かろめ

土凍<sup>ツチ</sup>マ<sup>イ</sup>水<sup>テ</sup>の骨<sup>ノ</sup>のひ<sup>ノ</sup>のひ<sup>ノ</sup>

英念

い<sup>ノ</sup>ろ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>は<sup>ノ</sup>好<sup>ク</sup>殖<sup>ル</sup>入<sup>ル</sup>子<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>

め

ゆ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>借<sup>ル</sup>瓢<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>瓢<sup>ノ</sup>

英

籠<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>以<sup>テ</sup>の<sup>レ</sup>晒<sup>ス</sup>之<sup>ノ</sup>少<sup>ク</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>リ</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>リ</sup>

め

茅<sup>ノ</sup>雜<sup>ク</sup>炊<sup>ル</sup>の<sup>レ</sup>あ<sup>リ</sup>と<sup>レ</sup>披<sup>ク</sup>け<sup>ル</sup>

英

迂<sup>ノ</sup>宮<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>施<sup>ル</sup>行<sup>ノ</sup>囉<sup>ク</sup>の<sup>レ</sup>鐵<sup>ノ</sup>厨<sup>ノ</sup>

め

棟<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>松<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>築<sup>ク</sup>

英

層<sup>ノ</sup>の<sup>レ</sup>留<sup>ル</sup>り<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>、<sup>レ</sup>踏<sup>ル</sup>破<sup>ク</sup>と<sup>レ</sup>驚<sup>ル</sup>男<sup>ノ</sup>

め

鯨喰<sup>ク</sup>とてゆく起す後

門<sup>ヒキ</sup>車<sup>ノ</sup>まが折<sup>ト</sup>横<sup>ノ</sup>架<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>おが<sup>ク</sup>

泥<sup>ノ</sup>のみあ<sup>ハ</sup>げし<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>入<sup>ツ</sup>梅<sup>ノ</sup>冷<sup>シ</sup>

管<sup>ノ</sup>葎<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>何<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>養<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>文<sup>ノ</sup>庫<sup>ノ</sup>箱<sup>ノ</sup>

ふ<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>重<sup>ノ</sup>封<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>活<sup>ノ</sup>春<sup>ノ</sup>終<sup>ノ</sup>つ<sup>ク</sup>

鬼<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>連<sup>テ</sup>て<sup>ノ</sup>あり<sup>ク</sup>蛇<sup>ノ</sup>等<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>海<sup>ノ</sup>鬼<sup>ノ</sup>鳴<sup>ク</sup>づ<sup>ク</sup>

拾<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>を<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>積<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>所<sup>ノ</sup>風<sup>ノ</sup>呂<sup>ノ</sup>

猿<sup>ノ</sup>着<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>出<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>雪<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>

日<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>分<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>

奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥

十

初<sup>ノ</sup>雷<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>地<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>震<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>跡<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>

沙<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>く<sup>ク</sup>う<sup>ク</sup>う<sup>ク</sup>用<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>

庭<sup>ノ</sup>雷<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>端<sup>ノ</sup>ぬ<sup>ク</sup>き<sup>ク</sup>い<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>別<sup>ノ</sup>々<sup>ノ</sup>多<sup>ノ</sup>履<sup>ノ</sup>

み<sup>ク</sup>す<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>風<sup>ノ</sup>形<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>毒<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>

金<sup>ノ</sup>屏<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>坊<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>儀<sup>ノ</sup>形<sup>ノ</sup>端<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>々<sup>ノ</sup>れ<sup>ク</sup>

笠<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>体<sup>ノ</sup>み<sup>ク</sup>く<sup>ク</sup>清<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>葉<sup>ノ</sup>

新<sup>ノ</sup>見<sup>ノ</sup>勝<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>表<sup>ノ</sup>入<sup>ク</sup>る<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>車<sup>ノ</sup>

迷<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>万<sup>ノ</sup>丈<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>魂<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>ら<sup>ク</sup>き<sup>ク</sup>

あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ノ</sup>

奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥 奥



寫し年種醫の露の空と宿む

車希<sup>オホバコ</sup>多<sup>ヒキ</sup>の暮蘇<sup>ヨシ</sup>かへす二月月

壁きく浪と野分ゆめく

梁<sup>ウチ</sup>うけの葉舟行ゆる抱え

あつきう遊く心申ルせば

極くくけ身ハ水の浮世

野史の番移る喜<sup>礎</sup>ずりの粗

風とあり戦<sup>ウチ</sup>のぬ花を要石

万歳<sup>ウチ</sup>の調子長閑哉

め

め

め

め

め

め

め

め

め

けひく 花のなるあつうのたナリをうのあまひ

月く 舟遊身ふりねるるどるを破きける空の

りまにあうくまのびくまき織るくしねま

ひまのりく 風のきねるる戸<sup>シキ</sup>國のうらあまねる

後浦<sup>シリガシ</sup>よきく 舟うひくくく<sup>カキガ子</sup> 船匙のうけあまねる

いしきく 舟うあねどか<sup>穂</sup>く<sup>若</sup>く<sup>アミ</sup>く<sup>子</sup> 土地の

空のよゆうく 舟遊る是る事 船あま中ま

葉とくく<sup>コホ</sup>く<sup>ヒロ</sup>く<sup>アウ</sup>く<sup>アウ</sup> 船のあまを懸あて

文のあや<sup>飾</sup>め<sup>飾</sup>る船をく<sup>アウ</sup>く<sup>アウ</sup>く<sup>アウ</sup>く<sup>アウ</sup> 舟の

名づけたりやわれ家の形と云々  
持ぬる昔と云々 清鏡キヨカミナのゆく割ミメラシり洗  
鏡のゆく押オシしけりては子改むと云々

城東の人と云々

附録

少曲偏内権者場所

古の只の白辰の色

一酒井雅忠及上中二名上名浦西角少森川

古の只の白辰

二代源河原日比古少内古名少辰色

一 幸之屋但馬守打焼定平清房打焼杉平相持打焼及打焼

古の只の白辰打焼中打焼中打焼持打焼及打焼永井打焼及打焼

和国名少内西辰下色

一 日法宮山 山石山内 并山梅田色  
中二層及 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内  
山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

幸梅山 山石山内 并山梅田色

一 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内

山石山内 山石山内

山石山内 山石山内

一 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

一 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内

一 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内 山石山内

山石山内 山石山内

一 河部掃磨寺及寺 杉木迫江寺及河川用田米田古島  
越前寺及河邊橋能保寺及河水野由利寺及河小島系  
依河寺及河石川重河及河真田佐藤寺及 長田白

少川町我家方燒去場

以常山長澤地境

一 杉平豊前寺及中子乃寺及坊 宗後若原乃取曲園  
左門 神保御若乃廣形辰寺中 宗原寺後 少村市元  
之常山長澤地境  
一 中多豊後寺及平田加賀寺及神保澤清寺燒

一 櫻多乃柿寺或乃柿寺及 西角寺乃少乃方一園  
春申寺乃河長乃寺乃

一 柿寺或乃柿寺及 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

山寺八寺中 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

唯一荒井寺乃 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

依原乃屋町河邊中乃 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

八寺中 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

依原乃新助寺乃保八寺乃乃 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

○ 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

乃我乃乃乃 櫻多乃柿寺乃河長乃寺乃及河長乃寺乃

今年秋空少雨  
乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃

表儀乐时束例之表儀乐时之

一半并去重之全穆内记表仪书好去书照其书柳所

八年左也

半及到也

一高并八半中却日如八中中降中替去痛

稚子穆也

一一急那之痛及

如不海川河内德去德德或地

一深川相川河德少好少保劫中阻水至日之

内表仪也

一口市德少德或或口内表仪也

一口市德河德德竹德德也 以也去也则也去也新田德也

一口市留吉河德德也 口新是也河之而京西念也

市德德也

一口新 口德德河德德也 口世去也中内表仪也

一口德德打年德德也 口内表仪也

一口新 口德德也 口去也德德也 口德德也

一口新德德也 口德德也 口德德也 口德德也

一 口前備志之宗申卷与燒者口前少加受燒矣

一 口前吊綱戸元長之修而後飛出之て少焼燬矣

一 口前善院番一柳掃屋等修永井之及而受燒矣

一 口前善院番林修及之而受少焼燬矣

一 口前善院所并之河内申而受少焼燬矣

一 口前善院所右田掃屋等申而受而善長而受燒矣

一 口前善院所左田掃屋等申而受少焼燬矣

一 口神前外島云々宗修江京善寺之焼燬也

一 口前中口前所打平因防等及下而受飛出之て少焼燬矣

一 口前花甲磯早院番白河早好等少焼燬材等口前受  
飛出之て焼燬矣

一 口前中口前所少善修但修善修等少焼燬而受燒矣

一 口前中口前所及持場内海之の善修場焼燬矣

一 口前燒燬場中口前之燒燬不記

一 十月進百口前 天長元年 東國寺 善修院 大僧正 朝野原 田向院 在野山

西南院 口多社布白屋瓦 園瑞院 新成 大徳院 伊豫

東海寺 曹洞宗 青和寺 法華宗 延壽寺 法華宗

度印寺 曹洞宗 曹洞宗 曹洞宗 曹洞宗

之取地 震より世に死する人氏少ありと云わたり  
あつたなり一め一悔つたりの中三々々くわたりし

本丹なる去施職鬼とせしめり

一 市中 そり縁のまのく河を不新堀に於て遊く  
あつたなりと云ふ中三々々くわたりし

一 十月二十九日より一ヶ月を波の中三々々くわたりし

了施職鬼 概り 概多あり

一 地元の町彩吉系町吉を以て依りて其口より清草町所  
深川よりたし吉系町より依りて依りて深川より

十月に於て 作有る所より清草町所より西伴町

口市 深川より所より山の上の所より山の上の所より  
山の上の所より山の上の所より山の上の所より

山の上の所より山の上の所より山の上の所より  
山の上の所より山の上の所より山の上の所より

山の上の所より山の上の所より山の上の所より  
山の上の所より山の上の所より山の上の所より





十月八日 ○ 乙酉  
十月七日 ○ 乙酉  
十月八日 ○ 乙酉  
十月九日 ○ 乙酉  
十月九日 ○ 乙酉

十月總計八千餘 極難發也 以略

石象不連万户 迺一卷借鈔友人  
待買半自筆本流覽遊一校以為

帳秘云

安政二年乙卯季冬 水 上 德 正

